

青森県における漁村のにぎわいづくりに 向けた取組について

～「漁港や藻場を活用した漁業体験プログラム
づくりの手引き」の作成～

青森県 農林水産部水産局 漁港漁場整備課
技師 泉将太

説明事項

1. 手引きの作成に至った経緯
2. 具体的な取組内容
3. 手引きの内容

1. 手引きの作成に至った経緯

- 青森県では、令和元年度に策定した県の基本計画『「選ばれる青森」への挑戦』において「人・文化・食を育むゆりかご」である**漁村を守る**ことを掲げています。
- こうした中、漁村の核となる漁港や漁港周辺を増養殖や蓄養による“**生業（なりわい）**”の場とするとともに、これらを新たな体験型観光資源として活用することで漁村の“**賑わい（にぎわい）**”を創出する『**わいわい漁港整備**』を推進することとしています。

1. 手引きの作成に至った経緯

佐井漁港（第4種：下北郡佐井村）におけるわいわい漁港整備

「なりわい」の場による活用

- 沖防波堤と増殖場（藻場）を整備
- 地元は、沖防波堤の内側をサーモンなどの養殖場にするほか、藻場を磯根漁場として活用
- また、漁港内の泊地をマツカワガレイの養殖場やナマコの増殖場としても活用

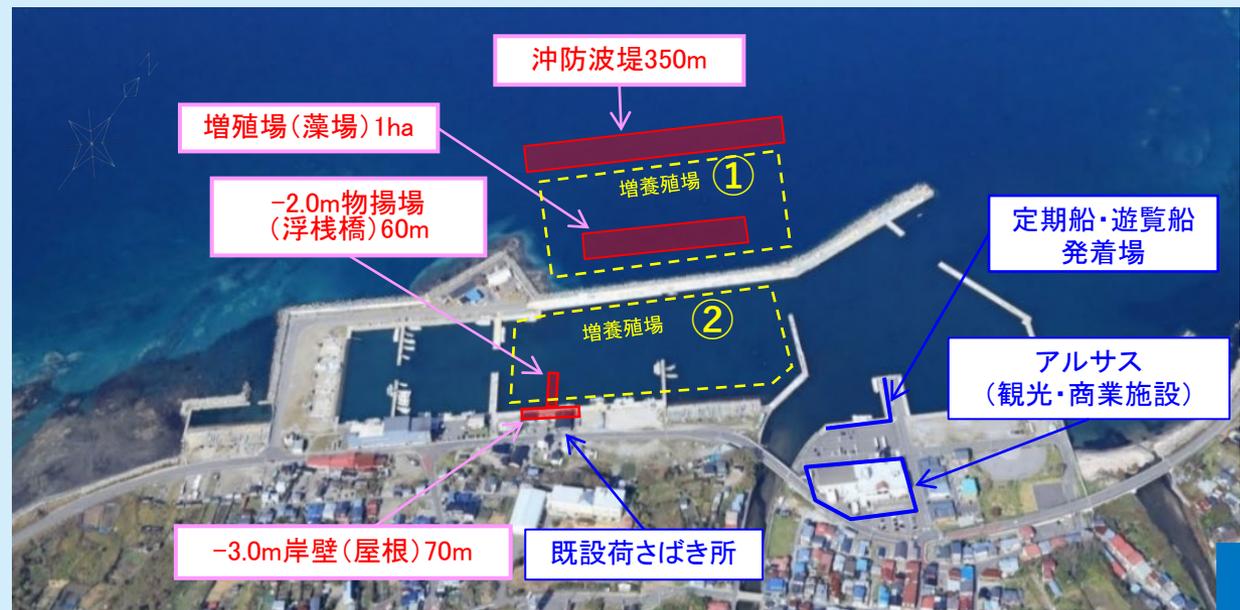
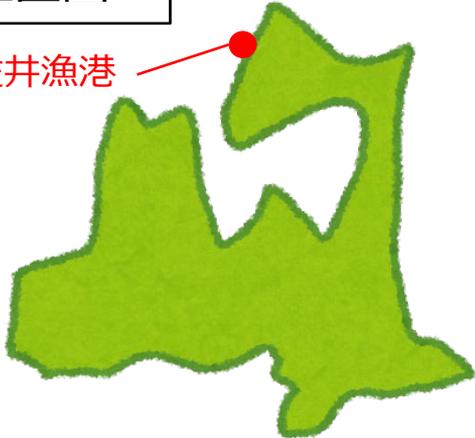
「にぎわい」の場による活用

「なりわい」の場となる漁港を「漁業体験観光」の場としても活用



位置図

佐井漁港



1. 手引きの作成に至った経緯

県が推進する「わいわい漁港整備」のうち、地元の方々が漁業の合間を活用した“賑わい（にぎわい）”づくりを取り組む際の一助となるよう、**「漁港や藻場を活用した漁業体験プログラムづくりの手引き」**を作成することとしました。

2. 具体的な取組内容

(1) 検討会の設置

1. 構成員

- 漁業関係者 (地元漁業協同組合、漁業者)
- 観光業者 (地元の旅行会社)
- 接客の専門家 (航空会社のキャビンアテンダント)
- 行政 (県、市町村)

2. 開催状況等

- [期間] 令和3年度～令和4年度
- [回数] 4回 (2回/年)
- [検討内容] モニターツアーの内容検討
手引きの審議・修正

2. 具体的な取組内容

(2) 先進地視察

1. 視察先

- 越前漁港（福井県：一般社団法人 越前町観観光連盟）
- 富来漁港（石川県：石川県漁業協同組合西海支所）
- 箱崎漁港（岩手県：NPOおはこざき市民会議）

2. ヒアリング項目

- プログラム開発の留意点
- 販売・プロモーション
- 自治体等との連携
- 経済・雇用効果

3. 判明した主な課題・留意点等

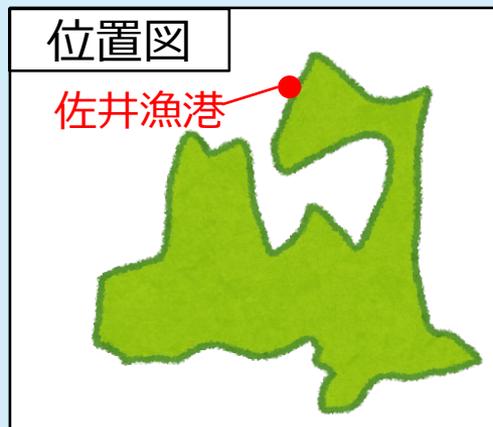
- 越前漁港：代替プログラムは必須、価格設定
- 富来漁港：観光客のマナー
- 箱崎漁港：漁業体験収益のみでは経営が厳しい

2. 具体的な取組内容

(3) モデル漁港でのモニターツアー実施

佐井漁港で実施したモニターツアーの概要について

- 実施時期** 令和4年7月30日（土）～31日（日）
- 実施場所** 下北郡佐井村 佐井漁港及び佐井村漁協施設内
- 参加人数** 11名（県内7名、県外4名）
- 事務局** 10名程度（地元漁業協同組合、漁業者、市町村
業務委託受注者、県）



2. 具体的な取組内容

(3) モデル漁港でのモニターツアー実施

養殖生け簀での餌やり、魚さばき体験（養殖生け簀の活用）



マツカワの養殖生け簀で
餌やり体験



すくいあげた魚を・・・



実際にさばく体験

2. 具体的な取組内容

(3) モデル漁港でのモニターツアー実施

海鮮BBQで贅沢な水産物を堪能（漁港の活用）



BBQ会場(荷さばき所前)



さばいた魚の刺身と野菜



地まきホタテ焼き

2. 具体的な取組内容

(3) モデル漁港でのモニターツアー実施

ウニ獲り・ウニ剥き・ウニ丼づくり体験（藻場の活用）



漁港内でのウニ獲り体験



ウニ剥き体験



ウニ丼の完成！

2. 具体的な取組内容

(3) モデル漁港でのモニターツアー実施

●モニターツアー参加者の感想

- ・ **普段の生活では経験できない体験**ができる大変良い取組であると感じました。
- ・ 現地の漁師の方々とのお話、ふれあい、そして、自ら体験することで**食への興味**が湧きました。**新鮮な食材に大満足**でした。
- ・ **漁師の仕事の大変さ**を感じ、今回の体験で**食品を大事にしたい**と思った

2. 具体的な取組内容

(4) 抽出された課題

① フィールドの設定

- 宿泊施設の有無を考慮したフィールドの設定が必要

② 代替プログラムの必要性

- 漁業体験は屋外で実施することが多いため、雨天時でも対応可能な屋内での代替プログラムの準備が必要

③ リーダー的人材の確保

- 地元活性化に意欲があり、プログラムの運営全般を主導し、周りを牽引する人材が必要

④ 安全面・衛生管理の徹底

- (安全面) 海への転落に備えた監視船の配置
- (衛生管理) 刺身等への直射日光の回避
食材への鳥糞混入防止対策

2. 具体的な取組内容

(5) 手引きの完成・関係者への配付

手引き(本編)



手引き(パンフレット)



3. 手引きの内容

1. 配付対象者

- 漁業関係者（地元漁業協同組合、漁業者）
- 観光業関係者（観光協会、飲食・宿泊業者、旅行業者）
- 自治体

2. 手引きの構成

- 第1章 漁業体験プログラムづくりに向けた準備
- 第2章 漁業体験プログラムづくり
- 第3章 漁業体験プログラムにおける安全管理
- 第4章 漁業体験プログラムの実践
- 第5章 漁業体験における「おもてなし」

3. 手引きの内容

第1章 漁業体験プログラムづくりに向けた準備

事業計画の作成



具体的な地域資源とは？

- 自然** 海、山、森、川、湖
- 漁業** 漁船、漁具・仕掛け、地域独自の漁法
- 食** 地元でよく獲れる水産物、生鮮・水産加工品、漁師メシ、伝統料理
- 施設** 漁村の街並み、観光施設、温泉、道の駅、直売所、加工施設、漁師小屋
- 人** 漁師、地域住民・企業、食・伝統工芸等の名人、地域おこし団体
- 文化** 地域行事、祭り、伝統芸能・工芸、歴史、民話、方言、歴史的建造物

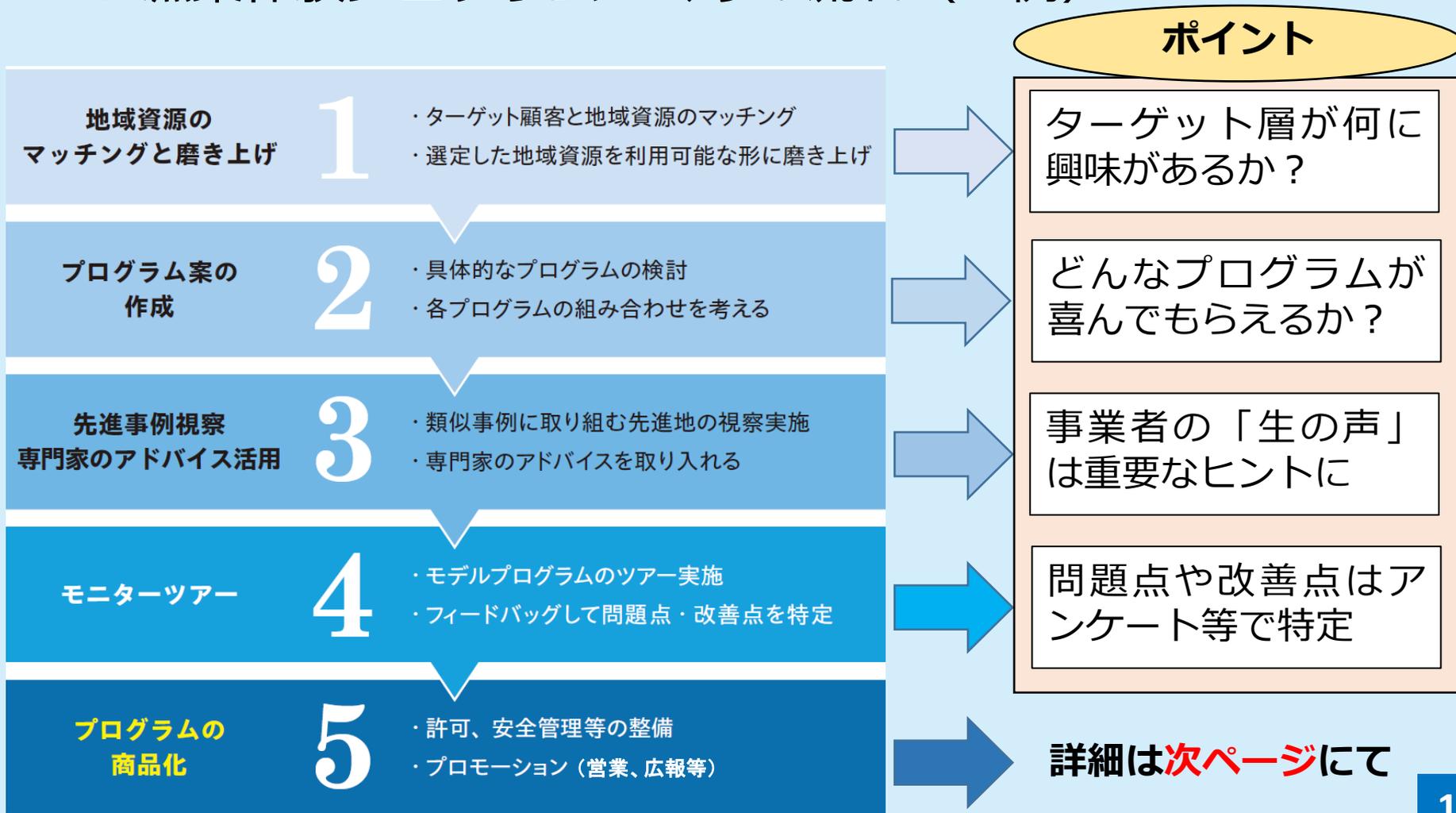
【地域資源の再発見のための3つのポイント】

- POINT 01** 地域資源だと「思う」「思わない」を区別しない
- POINT 02** 観光客や移住者など域外から来る人の声を聞く
- POINT 03** すでにある地域資源を組み合わせる

3. 手引きの内容

第2章 漁業体験プログラムづくり

1. 漁業体験プログラムづくりの流れ（一例）



3. 手引きの内容

第2章 漁業体験プログラムづくり

2. 漁業体験プログラムづくりと商品化のポイント

具体的な内容・ポイント

(1) 許認可

漁業権、漁船使用、漁港施設の占用

(2) 代替プログラムの準備

荒天時におけるプログラムを複数用意

(3) 料金設定の考え方

魅力ある水産物は**多少高くても売れる**

(4) プロモーション
(営業・広報など)

- 主な営業活動先は旅行会社、企業
- 色々な手法で情報発信
(WEB、SNS、新聞折込など)

(5) 2次交通対策

来客者の**利便性を高める**仕組みづくり

3. 手引きの内容

第3章 漁業体験プログラムにおける安全管理

想定されるリスクについて



3. 手引きの内容

第4章 漁業体験プログラムの実践

1. モデルプログラム（藻場活用編）
2. モデルプログラム（養殖生け簀活用編）
3. モデルプログラム（漁港活用編）
4. モデルプログラム（代替プログラム編）
5. 漁業体験プログラム実践の流れ
6. 漁業体験プログラム実践に向けたチェックポイント



3. 手引きの内容

第5章 漁業体験における「おもてなし」

マナーの基本

『挨拶』は相手の**目を見て**、明るくはっきり、**歓迎の気持ち**を込めて

『言葉づかい』は相手の状況や関係性に
応じて使い分けることが重要

方言や訛りはプラス要素の1つ

『身だしなみ』は明るさ、清潔感、機能性を意識することが重要



『笑顔』には**緊張感をほぐす**、引き込む、**不快感を取り除く**などの効果あり



『返事』はすぐに反応し、**相手の元へ**



- 笑顔
- お辞儀 等



- 腕組み
- 拳動不審 等

おわりに

今回作成した手引きをきっかけに、**普段目**にしている景色や食べている食材、話す言葉などの**当たり前は観光客や外国人にとって当たり前ではないこと**を理解してもらいたい。

漁港ならではの体験、食材などの地域資源は、普段の暮らしの中では体験することができない**魅力ある観光コンテンツ**であり、観光客等は興味を持ってもらえる可能性は大いにあると感じている。

漁業関係者自らが漁業の合間に行政や観光協会等と連携して漁業体験観光を行うことで、副収入の増加や地域経済の活性化、雇用の創出及び交流人口の増加など**漁村がにぎわい、好循環**が生まれることを期待したい。

ご静聴頂き、ありがとうございました。

